

令和 5 年 度

下 川 町 教 育 の 概 要

下 川 町 教 育 委 員 会

下 川 町 民 憲 章

わたくしたちは、さく北の雄大な自然の中に生きる下川町民です。未来に希望をもち、農・林・鉱の資源を活用して、よりよい下川をつくることに努めましょう。

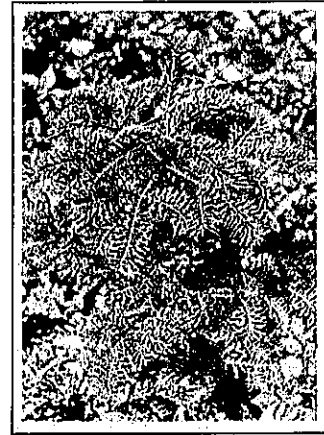
1. 心も、からだもすこやかに、あたたかい家庭をつくりましょう。
1. よい環境をつくり、青少年のつよく正しく育つまちにしましょう。
1. 自然を愛し、美しいまちづくりに努めましょう。
1. きまりを守り、みんな仲よく助け合い、明るいまちをつくりましょう。
1. 町の歴史を大切にし、文化の高い歴史をきずきましょう。

(昭和41年10月1日制定)



町花 (エゾリンドウ)

昭和52年12月23日制定



町木 (トドマツ)

昭和52年12月23日制定

下 川 町 教 育 是

1. 北方生活に適応する、健康で明朗な町民
2. 正義を愛し、敬虔で、豊かな情操をもつ町民
3. 勤労を尊び、科学的に生活を高める町民
4. 知性に富み、北方生活文化の向上を図る町民
5. 責任を重んじ、協調心強く、郷土愛に燃える町民

目 次

1	令和5年度教育行政執行方針	1
2	下川町教育委員会事務局の機構と職員配置図	8
3	第2期下川町総合教育大綱（下川町教育推進計画）	
	（1）全体構造図	10
	（2）計画の体系図	11
4	学校教育 下川町学校教育のあらまし	
	（1）下川小学校	
	①学校経営	12
	②校務運営組織	14
	（2）下川中学校	
	①学校経営	15
	②校務運営組織	17
	（3）教育関係委員等の状況	
	①下川町教育委員会	18
	②下川町教育支援委員会	18
	③下川町立学校医・学校歯科医・学校薬剤師	18
	④下川町学校運営協議会	19
	⑤下川町いじめ問題対策連絡協議会	19
	⑥下川町いじめ問題対策専門委員会	19
5	社会教育	
	（1）令和5年度社会教育事業計画及び公民館運営事業計画	
	Ⅰ生涯学習	20
	Ⅱ生涯スポーツ	23
	Ⅲ芸術文化	24
	（2）令和5年度下川町公民館運営方針	26
	（3）社会教育関係各種委員の状況	
	①下川町社会教育委員及び下川町公民館運営審議会委員	27
	②下川町スポーツ推進委員	27
	③下川町文化財保護審議会委員	27
	④下川町視聴覚ライブラリー委員	27
	⑤下川町町民会館児童室運営委員及び放課後子どもプラン運営委員	27
	⑥下川町青少年育成推進協議会役員	28

(4) 令和5年度社会教育関係団体の状況	
①各種団体連合会等	29
②その他社会教育関係団体	32
(5) 下川町の文化財	33
(6) 下川町社会教育関係表彰状況	
①旧表彰規則による表彰者	35
②下川町文化賞	35
③下川町特別町民栄誉賞	35
④下川町町民栄誉賞	35
⑤下川町特別スポーツ功労賞	35
⑥下川町スポーツ功労賞	36
⑦下川町特別スポーツ栄誉賞	36
⑧下川町スポーツ栄誉賞	36
⑨下川町スポーツ貢献賞	37
⑩下川町文化奨励賞	37
⑪下川町スポーツ奨励賞	38

1 令和5年度 教育行政執行方針

令和4年下川町議会定例会3月定例会議の開会にあたり、教育行政執行方針を申し上げ、議会並びに町民の皆様のご理解とご協力をお願いしたいと存じます。

新型コロナウイルス感染症の収束が未だ見られない中、感染症法上の分類が、5月8日から5類感染症に位置付けるという政府の方針が示されたところではありますが、4年目を迎えた新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、新たな生活様式が定着しつつあります。

併せて、人口減少や少子・高齢化に加え、グローバル化の進展により、個人の価値観やライフスタイルの多様化、地域社会における支え合いの希薄化、日常生活における情報化などが急速に進んでおります。

このことが、多方面にいろいろな変化をもたらしていることから、教育委員会主催の事業・行事等についても町民一人ひとりが主体的に関わり、多様な人々と連携・協働しながら活力ある地域社会を創り出していけるよう、今一度運営方法や内容面を見直す必要があると考えております。

また、郷土の歴史や文化に誇りをもち、複雑多様化する課題と向き合いながら、地域の発展を支える人材の育成を担う教育の役割がますます重要となってきました。

さらに、第6期下川町総合計画の将来像を達成するための2030年における下川町のありたい姿の一つである「子どもたちの笑顔と未来世代の幸せを育むまち」を基本に、令和2年度に作成した下川町地域共育ビジョンとともに、第2期下川町総合教育大綱（下川町教育推進計画）の基本目標を実現していくため、ポストコロナ時代を見据えた、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育(ESD)と、続ける幸せだけでなく、変わる・新しい幸せを生む教育行政を今後も推進してまいります。

次に、教育委員会として令和5年度に重点的に取り組む施策について、6点申し上げます。

一点目は、「変化の激しい社会を生き抜く力の育成」についてです。

小中学校教育においては、児童生徒が、自分のよさや可能性を認識して、他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら、生涯にわたって楽しく学び続けることができるよう、個性を生かし、可能性を最大限に伸ばすことにより、夢や希望をもち、変化の激しく予測困難な社会を生き抜く力の育成に努めていくことが重要であります。

これを実現していくためには、学校の教育活動においても、引き続き基本的な感染対策を徹底した上で、児童生徒一人ひとりの可能性を理解し、伸ばす指導を工夫するとともに、学習の環境整備に努めることによって、学びを止めず、学ぶ意欲を

高めていく必要があります。

具体的には、ICT推進アドバイザーやICT支援員により、ICTに係る教職員の日常的な業務・学習支援の充実、配置した一人一台タブレットを授業で活用していくことができる学習環境の整備とともに、セキュリティ強化による遠隔・オンライン授業を行うことで、児童生徒の学びを保障してまいります。さらに、学校における働き方改革を進め、年齢に関係なく、全教職員が、人間性や創造性を高め、自らの授業のレベルを引き上げることができるよう、業務改善を通じた仕事の効率化などを図っていくこととします。

また、整備しているICTにより、学習履歴や生徒指導上のデータ等を利活用することで、教師の負担を軽減するとともに、ICT活用による効果や意欲的に学ぶ児童生徒の様子を積極的に公開してまいります。

次に、「特別の教科 道徳」が道徳教育の要の時間として機能するよう、道徳的な価値を自分のこととして捉え、よく考え、議論するなど、指導方法の工夫改善を図ってまいります。

具体的には、参観日に「特別の教科 道徳」の授業公開を行うとともに、道徳推進教師が中心となって相手の気持ちや考えを思いやり、自分と異なる個性を受け入れ、助け合うことができる心豊かな児童生徒を育成する取組を計画的に実践し、その成果等を学校だより等によって公表してまいります。

さらに、生徒指導では、主に特別活動を通して、教師と児童生徒との信頼関係及び児童生徒同士の好ましい人間関係、ひいては個性の違いを認め、尊重する関係を基本として、学校全体で支持的風土を醸成していきます。とりわけ、いじめ防止の取組については、どの児童生徒にも、どの学校にも起こり得るという認識に立ち、どんな理由があっても、いじめは絶対に許されることではないことを理解させるとともに、学級担任が中心となって行う定期的ないじめ調査や教育相談だけでなく、すべての教師が児童生徒に接するあらゆる機会をとらえた、いわゆる「チャンス相談」等や日常的に保護者・地域からの情報を受け入れ、事実確認を速やかに行うことにより、未然の防止と早期発見に努め、いじめの疑いがある場合には、組織的かつ速やかに対応するよう、各学校等への指導を徹底してまいります。

また、不登校の児童生徒への対応については、児童生徒の状態やニーズに応じて学習意欲の維持、向上等を図るため、学校内外において、ICTを活用した計画的な学習活動を行えるよう、支援の充実に取り組むとともに、学校や下川町認定こども園「こどものもり」、保健福祉課などの関係機関と連携を図りながら、社会的自立を目指し、個々の児童生徒に応じた組織的・計画的なきめ細やかな支援を行ってまいります。

次に、健やかな体づくりとしては、児童生徒の体力向上に向けて、全国体力・運動能力、運動習慣等調査など該当学年の客観的なデータを基に、全学年で保健指導

及び保健管理の充実に努めるとともに、自らが心身の健康を大切にすることに気付き、運動することの楽しさを実感し、望ましい生活習慣を身に付けさせることができる体育科や保健体育科の授業改善と学校の特色を生かした体力づくりの見直しを行ってまいります。

また、食に関する正しい知識と、地産地消や望ましい食習慣の定着を図る食育の充実等につながる健康教育を、栄養教諭と連携して小中学校で実践してまいります。

次に、学校安全につきましては、交通事故や災害等の発生時に児童生徒の安全を確保するために、教職員だけでなく、児童生徒自身も迅速・的確に行動することが不可欠です。

そのために、交通安全教室、防犯教室、防災教室により、児童生徒の意識啓発に努めるとともに、保護者や関係機関、団体との連携を図りながら、児童生徒自身に、危険予測能力や危機回避能力を身に付けさせてまいります。

また、小学生のバス通学に関して、今年度から下校時のバス乗車場を、中学校と同じように、下川町民会館前から小学校の校地内に変更し、児童の安全確保に万全を期してまいります。

次に、特別支援教育につきましては、児童生徒や保護者の多様化する教育的ニーズに応じた支援を行うことが大切であります。そこで就学前から、特別支援教育コーディネーターや特別支援教育相談員による学習面や生活面に、配慮が必要な児童生徒の実態把握と、必要に応じて外部の専門家による助言指導を受けるとともに、小中学校に特別支援教育支援員を配置し、特別な支援を必要とする児童生徒の学校生活を支援してまいります。

加えて、特別支援教育連携協議会による研修会や子育て講演会などを通して、関係職員だけでなく一般町民の皆様も参加できる特別支援教育関連の今日的課題に対する研修会等の実施に努めてまいります。

二点目は、「地域とともにある学校づくりの推進」についてです。

小中学校教育の質向上を図るためには、教職員間や学校間の情報・行動連携と、教職員一人ひとりが個性・能力を十分に発揮できる環境整備だけでなく、学校と家庭や地域が連携・協働して児童生徒を育む学校づくりを推進していくことが重要であります。

これを実現していくためには、学校が地域の教育力を、地域が学校の力を活かしていくことができるコミュニティ・スクール（学校運営協議会）や学校支援地域本部事業で、互いに児童生徒の実態及び課題の共通認識を深め、また、地域学校協働活動の推進により、学校の教育活動と地域活動を繋げることで、地域の魅力や課題に触れる機会が生まれ、多様な体験活動が創出されます。これにより、児童生徒が自らやってみたいことに挑戦できる環境づくりを整備し、実践につなげていくことや地域・学校・家庭が連携した場づくりを進めてまいります。

具体的には、小中学校の校長が作成した令和５年度の学校経営方針を踏まえた重点目標と、学校運営協議会が地域の願いとしてまとめた「下川を愛する児童生徒像」の中に、令和５年度の重点を位置付けた「義務教育９年間でめざす姿」を基本に、教育委員会、学校と学校運営協議会の３者が、小中学校の経営状況を共有し、協議を行いながら、一体となって児童生徒に「生きる力」を育成してまいります。

次に、地域に開かれた学校づくりとしては、地域学校協働活動推進委員を派遣し、小学校のクラブや中学校の部活動のほか、図書室の充実に向けた取組に加え、学校行事等の教育活動と連携した地域学校協働活動を推進してまいります。また、小中学校の教職員の専門性を生かし、相互に授業の乗り入れを実施してまいります。

さらに、中学校の部活動の地域移行に関しては、生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の整備を図るため、まずは休日の部活動の移行を基本とした上で、地域指導者の確保や部活動参加の費用負担、活動場所の確保などの課題を整理し、今年度から７年度までの３年間を改革推進期間として捉え、部活動の地域移行に関する推進計画を検討してまいります。

次に、幼小の連携については、小学校入学当初において、幼児期に自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、情報の共有・連携を重視してまいります。

次に、下川商業高等学校への支援について申し上げます。

近年、上川北学区の中学校卒業生の減少などにより、生徒確保が非常に厳しい状況であることから、引き続き、商業におけるスペシャリストの育成を目指した魅力ある学校づくりを支援していくことが重要であります。

これを実現していくために、学校が地域と共にある特色ある教育活動や生徒の個性を大切に、能力や適性に応じた学習を進めていけるよう、本町として、直接支援できる環境を整備していく必要があります。

具体的には、課題研究授業などによる学校と地域との連携を支援する地域学校協働コーディネーターを派遣し、総合的な探究の時間における個別の課題研究を実現するとともに、下川商業高等学校コミュニティ・スクール（学校運営協議会）との連携・協働を確保し、地域と共にある魅力ある学校づくりの充実に繋げていくことができるよう、存続維持・発展に向けた各種の振興策を進めてまいります。また、大学等に進学する下川商業高等学校の卒業生への支援として、就学資金助成事業を引き続き行ってまいります。

三点目は、「下川への愛着や誇りと未来へ飛躍する力の育成」についてです。

児童生徒が発達段階に応じて、ふるさと下川の自然環境や地域の歴史・伝統・地域の人に触れ、地域のよさを学ぶことで、自分が得意とする分野や可能性を見だし、挑戦できる環境を整えていくことが重要です。

これを実現していくためには、地域を基盤としたキャリア教育に力を入れ、地域

や地元企業等との連携協力により、一人ひとりの興味・関心を見つける機会をつくり、多様な大人との対話を通じた取り組みや、地域をフィールドとした実践を小学校から高校まで一貫して実施し、自律した社会人に向けて必要となる資質・能力の基盤を育むとともに、SDGsの考え方を身に付ける取組を継続して推進してまいります。

具体的には、令和4年度に改訂した社会科副読本「しもかわ」を活用しつつ、身近な自然を通して、学校だけでなく地域の大人達から学ぶ機会を通した教育活動を進めてまいります。

次に、児童生徒がお互いの考えや気持ちを認め合い、自分の思いや考えを気兼ねなく発信することができる心理的安全性を高めることができる集団づくりを進め、すべての教育活動の土台となるコミュニケーション能力の育成につなげてまいります。

次に、下川町認定こども園「こどものもり」から小・中学校、高等学校において、森林とのふれあいや林業体験などを実施し、系統的な森林環境教育を継続してまいります。

また、保護者の義務教育に係る費用の軽減として、学校教材費等助成事業を引き続き行ってまいります。

四点目は、「学びあい高めあう地域社会を創り出す生涯学習の推進」についてです。

町民一人ひとりが乳幼児期から高齢期までの生涯各期において学び続け、その成果を生かし、充実した潤いのある生活を送ることができる生涯学習の推進が重要です。

これを実現していくためには、生涯各期に限定することなく、異年齢集団における学習機会の提供と互いに学び合うことができる学習を推進し、スポーツ・文化活動も含め、民間団体活動の充実を図るとともに、気軽に楽しむことができる環境整備に努めてまいります。特にポストコロナ時代においては、感染対策を行いつつも、互いに楽しみ高めあい、生きがいを創り出す事業を展開してまいります。

具体的には、家庭教育において保護者が、子どもの健やかな成長に必要な知識を学び、家庭の教育力向上に寄与するためのセミナーや体験講座などの学習機会を提供するとともに、親子の絆を深める取組を実施してまいります。児童室においては、親子が安全で安心してふれあえる場を提供するとともに、放課後児童の安全と居場所を確保してまいります。

次に、青少年教育においては、人間形成の基礎がつくられる最も大切な時期であり、地域・家庭・学校が連携を深め、学校外で良好な教育環境を構築し、実践していく必要があります。そこで、継続的・計画的に実施している小中学生対象のキッズスクールや中高生の居場所づくり事業等による各種体験活動や自習学習等の充実を図ります。

次に、高齢者教育においては、ポストコロナ時代に即した内容となるよう、各種交流会や高齢者学級などの見直しを図りながら提供するとともに、高齢者がもつ知識、技能や経験を活かし、健康で生きがいのある充実した生活を送られるよう努めてまいります。

次に、図書室においては、日常の暮らしに役立ち、課題解決につながる図書資料の充実を図るとともに、読書を通じた主体的な生涯学習や活動を支援し、親しまれる図書室づくりを進めてまいります。また、読み聞かせや読書イベントなどにより、子どもが本に親しむきっかけづくりや親子のふれあいを促進し、学校の図書室との連携を図りながら、読書環境の整備に努めてまいります。

五点目は「豊かな心を育む芸術・文化の振興」についてです。

優れた芸術文化に接する機会を充実させ、町民一人ひとりの創造性を高め、心豊かで活力ある地域づくりにつながる芸術文化の振興が重要です。

これを実現していくために、町民による自主的・創造的な芸術・文化活動を支援するとともに、芸術文化に接する機会の提供や文化協会加盟の文化サークルと連携した町民参加型の事業を実施してまいります。

具体的には、地域の歴史や伝統文化を後世に伝えるため、積極的な伝承活動が行われております無形文化財である「上名寄郷土芸能」を永く後世に伝えるために支援するほか、町民が触れる機会を設けてまいります。

また、郷土資料については、データベースを基に台帳を作成し、管理をしているところですが、「ふるさと交流館」や、「札天山収蔵館」の所蔵品を含め、そのあり方を再検討するとともに、公開しきれない郷土資料を保管している「^{きゅうりょうこう}旧菱光小学校」について、管理方法を見直してまいります。

六点目は「誰もが楽しく健やかな心身を育む生涯スポーツの振興」についてです。

町民一人ひとりが、健康づくりやスポーツを通じて、楽しく心と体を鍛えることができる生涯スポーツの振興を図ることが重要です。

これを実現していくためには、健康の保持増進やレクリエーションを目的として、いつでも、誰でも、どこでも、気軽にできる生涯スポーツを推進していきます。

具体的には、基本的な感染症対策等、新しい生活様式に沿って、年齢や体力に応じ、安心して取り組んでいただけるスポーツ教室等を実施してまいります。

次に、競技スポーツにおいては、スポーツ協会加盟団体やスポーツ少年団、中学校・高校の部活動に対し、活動への支援を行うとともに、ポストコロナ時代を見据え、参加者だけでなく、運営者側にも安心して参加、運営していただける各種競技大会の開催などにより、保護者の負担軽減や競技力向上を図り、青少年の健全育成に努めてまいります。

さらに、ノルディックスキー競技においては、本町出身選手が国内外の大会で活躍しており、それが町民に感動と勇気と可能性をもたらしていることから、今後

おきまして、幼少の裾野を広げる活動に力を入れるとともに、専門指導員を中心に、幼小中高一貫指導を継続し、世界を目指す選手の育成強化と学校への支援を推進してまいります。

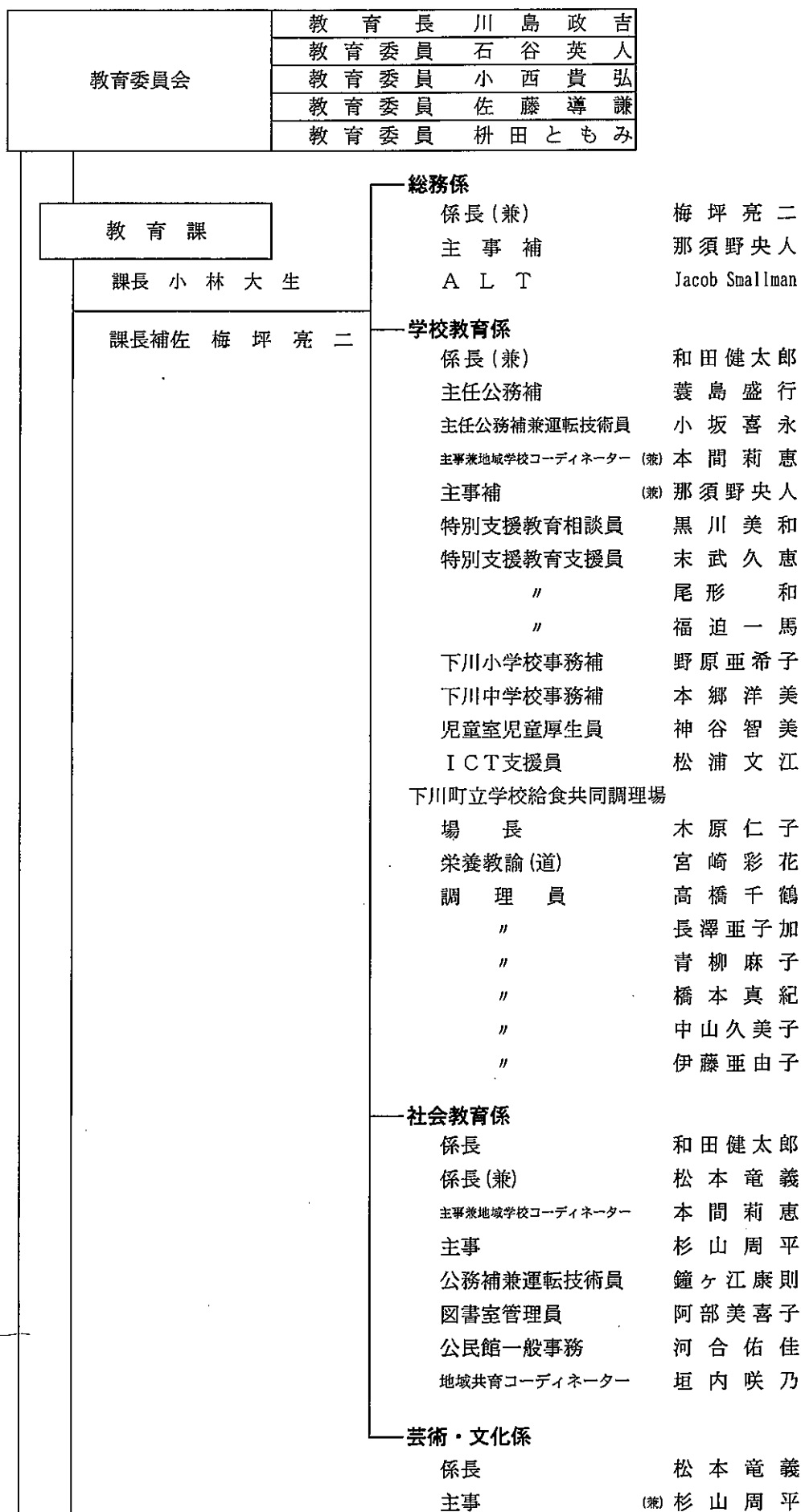
社会教育施設やスポーツ施設においては、年間を通した利用状況と関係団体や利用者等の意見等を把握し、今後の管理運営や整備等について検討を進めるとともに、老朽化の進んだ施設もあることから改修を行い、安全な利用に支障をきたす箇所については、緊急性があるものとして、修繕を実施してまいります。

以上、教育行政執行方針を申し上げましたが、先行き不透明なポストコロナ時代を乗り越えていくため、生涯を通して学び、考え、様々な困難に対応できる教育が求められております。

本年度におきまして、町長部局と緊密に連携しながら、いくつになっても、自分のよさや可能性を信じ、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら挑戦することによって、創意ある教育行政を執行し、本町の教育の充実・発展に取り組んでまいります。

今後とも、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げまして、下川町教育行政執行方針とさせていただきます。

2 下川町教育委員会事務局の機構と職員配置図



生涯スポーツ係

主幹 伊藤 克彦

係長(兼)

伊藤 克彦

主査

竹本 和也

主事

(兼) 杉山 周平

公民館

(兼)館長 川島 政吉

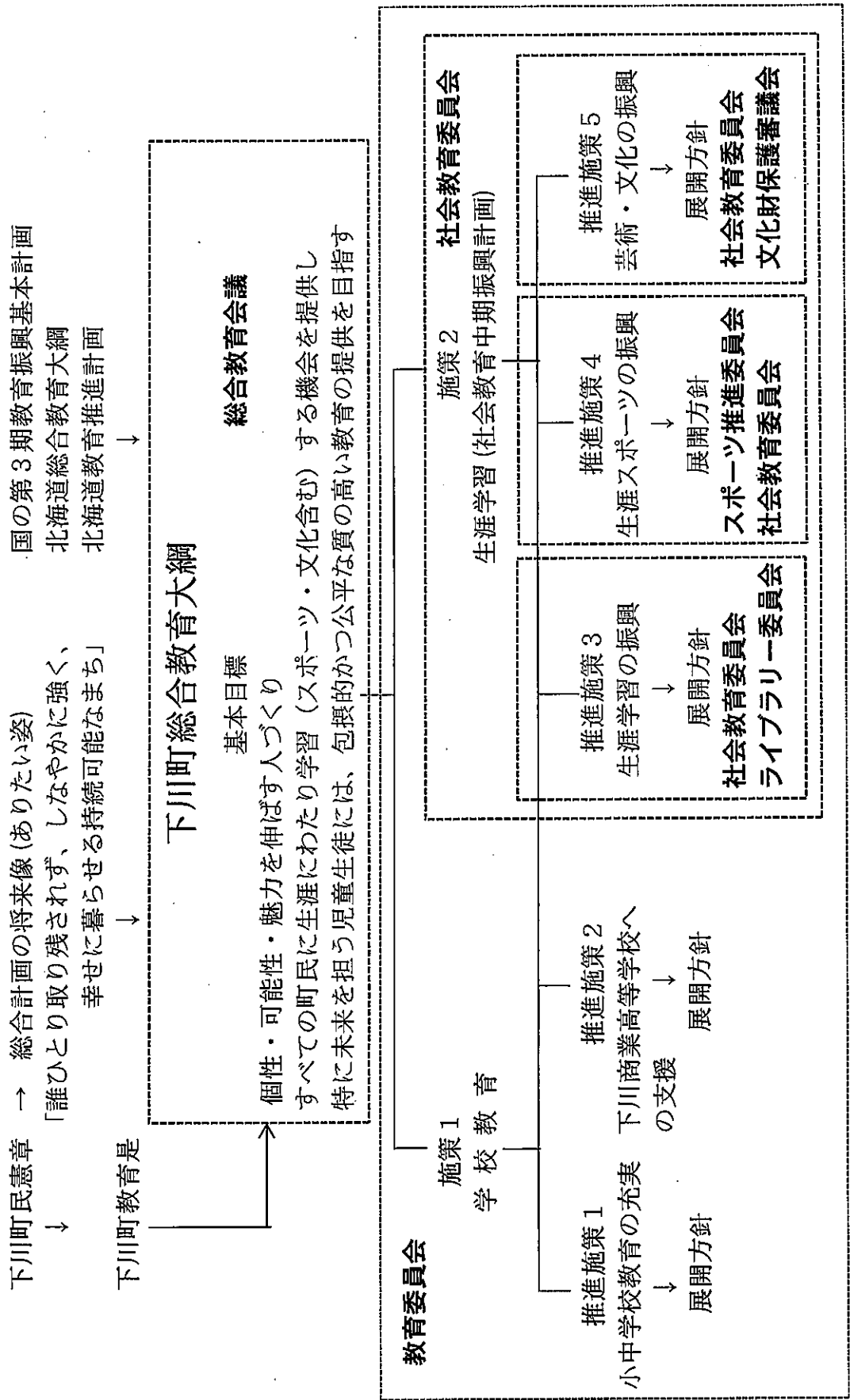
(兼)副館長 小林 大生

(兼)主事 教育課職員(学校公務補、道費職員、会計年度任用職員を除く)

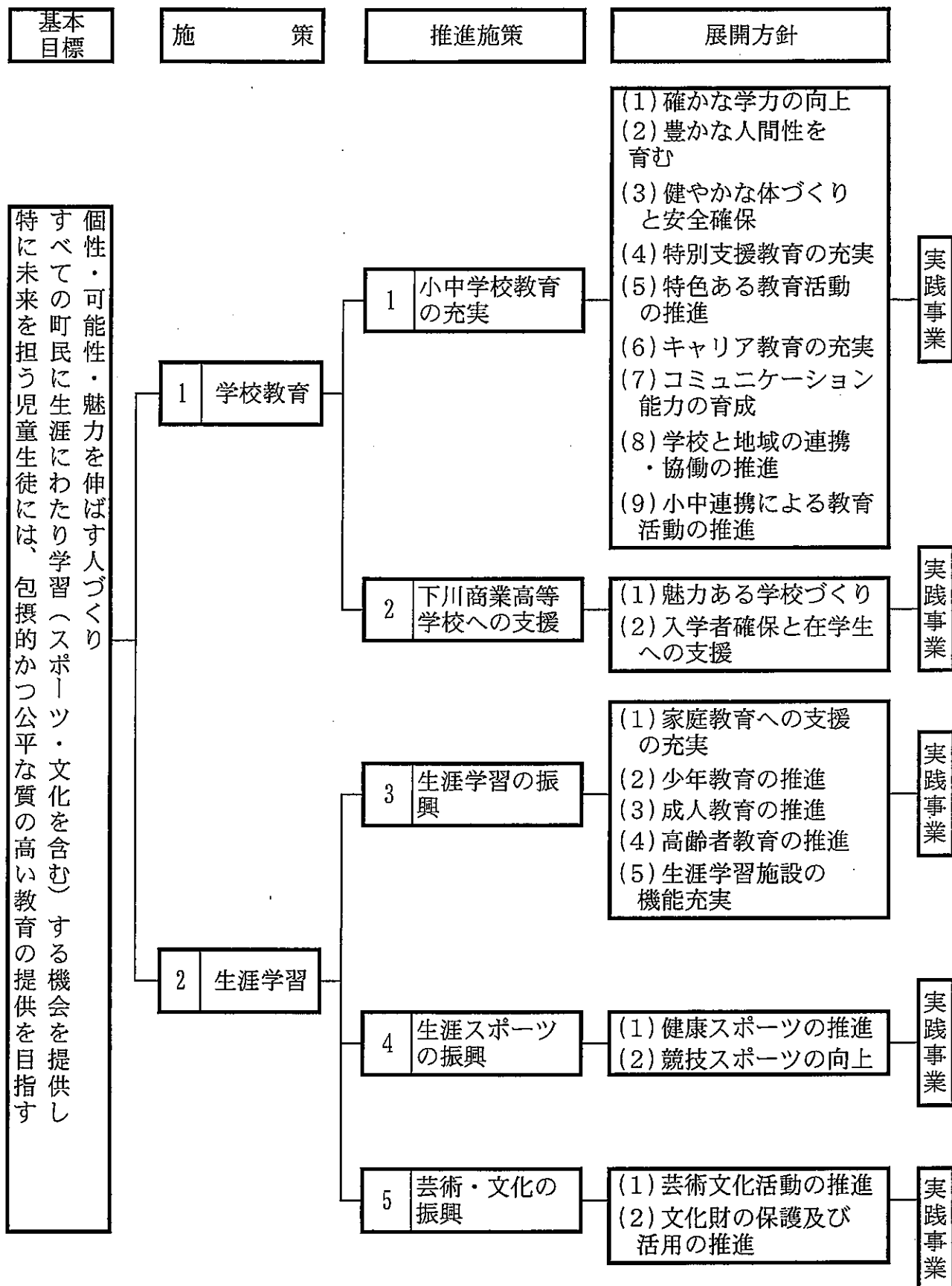
3 第2期下川町総合教育大綱（下川町教育推進計画）

(1) 全体構造図

全体構造図（平成31年現在）



(2) 計画の体系図 (平成31年現在)



4 学校教育 下川町学校教育のあらまし

(1) 下川小学校 (下川町西町40番地)

① 学校経営

(R5.5.1現在)

校 長	井 川 健	児童数	学 年	1	2	3	4	5	6	特支	合計
教 頭	佐 藤 仁 彦		男	8	7	8	9	8	3	7	50
学級数	10 (うち、特支学級4)		女	13	10	11	9	10	7	3	63
			計	21	17	19	18	18	10	10	113
校 訓 ・明るい子ども (S48年制定) ・考える子ども ・がんばる子ども			学 校 及 び 児 童 の 実 態								
学 校 の 教 育 目 標			本校は、市街地の西側に位置し、開校116年を迎えた歴史と伝統のある学校である。昭和47年に校舎建設後、平成6年度に大規模改修、平成25年度に内装木質化及び地域熱供給施設システム導入を行っている。普通学級6学級、特別支援学級4学級の編成で、クラス20名前後の教育環境にある小規模校である。児童は、理想的な学級人数構成と恵まれた学習環境や自然環境の中で笑顔に溢れ明るく生き生き生活しており、挨拶運動の先頭に立つ児童会役員やジャンプに果敢に挑戦する児童、森林の中で静かに考える児童など、笑顔の学習活動が学校生活に意欲と喜びを与えている。学力に関しては、学年差や個人差が大きく、更なる基礎学力の確実な定着及び、諸事情により遅れて登校する児童が数名おり、個に応じた支援が必要である。								
「今を確かに生き、未来にはばたく子どもを育てる」											
め ざ す 学 校 像											
○学びがいのある学校【子ども】											
○働きがいのある学校【教員】											
○頼りがいのある学校【保護者】											
○親しみのある学校【地域】											
年 度 の 重 点											
「自分の居場所と学びをを実感する子」どの子にも『笑顔』と『自信』を！											
学 校 経 営 の 基 本 方 針											
「 共 に 汗 を 」											
＜経営の基本＞											
①「知・徳・体」のバランスのとれた人間性豊かな生きる力の育成を目指した本校教育目標の具現化に努める。											
②「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の3つの資質能力の育成に向けた「目指す子ども像」を保護者、地域と共有し、成長を共に喜び合える関係づくりに努める。											
③教職員の実践的指導力やチーム貢献力の向上を図り、重点課題を共有しながら学校力の向上に努める。											
＜目指す学校像＞											
【子どもにとって】 「学びがいのある学校」											
【教師にとって】 「働きがいのある学校」											
【保護者にとって】 「頼りがいのある学校」											
【地域にとって】 「親しみのある学校」											

指 導 の 重 点	
各教科	◎ 各教科における基礎・基本の習得と活用力の向上 ア 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質・能力の育成に向けた学習過程の構想 イ 「習得」「活用」「探求」の学びを意識した単元構成 ウ 文章理解と文章表現の能力の習得を目指す全校的な授業改善 エ 一人一人の学びを支える集団づくり（学習のつまずきとフォローアップ） オ 家庭と連携した学習習慣の確立に向けた具体策の実施（家庭学習計画の推進） カ 「例年通りバージョン変換」に終わらない指導要領に準拠した社会科副読本の作成
道徳	◎ 豊かな心を育む道徳教育の充実 ア 考え、議論する問題解決的な道徳授業の工夫（重点：A：【正直、誠実】【節度、節制】） イ いじめの根絶に向けた「人権」教育の推進 ウ 自分や友達のよさを実感できる場の設定と充実 エ 学校行事の取組を通じた思いやり、連帯感、協力性の育成
特別支援教育	◎ 一人一人のニーズに応じた発達を促す特別支援教育の充実 ア 教育的ニーズに適切に対応するための担任間及び特別支援教育相談員や支援員との協働的な校内の支援体制の確立 イ 指導内容・指導方法の工夫と自立と社会参加を目指した指導の実施 ウ 特別支援学級と通常学級との交流及び共同学習の推進と連携の強化 エ 特別支援学校、名寄市立大学、各種機関との教育相談や医療機関との連携 オ 児童一人一人のよさや進歩の状況を的確に把握する評価の工夫
外国語活動	◎ 新学習指導要領に沿った外国語・外国語活動の充実 ア 外国語活動と外国語科の段階的・系統的な内容理解と指導法の共有（校内研修等） イ 指導体制の工夫や教材の活用・蓄積（ALTとの連携） ウ 中学校英語への接続を意識した具体的な連携の推進（乗り入れ授業等）
学習の総合的な時間	◎ 自ら学び、自ら考える「総合的な学習の時間」の充実 ア 系統性と教科横断的な内容及び育てたい資質・能力を明確にした指導計画の作成 イ ESD（持続可能な開発のための教育）を意識した下川学的学習 ウ 地域と触れあい、地域に学ぶ、体験的な活動を大切にしたいふさと教育の充実 エ 学びのコーディネーターによる地域資源や専門的な人材の活用、学習の交流等の充実
特別活動	◎ 自主的、実践的な態度と社会性を育む特別活動の充実 ア 社会性を育む指導の工夫と多様な集団活動の充実（異学年交流及び縦割り班活動等） イ 子どもの社会性や集団への所属感を高める活動の充実（学級活動、学校行事等） ウ 自治的能力、自発的活動の工夫と充実（児童会活動、中学校との連携等） エ 地域の外部講師を活用したクラブ活動の充実
生徒指導	◎ 一人一人に寄り添う生徒指導の充実 ア 子どもへの共感的理解、教育相談の充実と校内指導体制の確立（個や学級の実態の客観的把握に基づく対応） イ いじめ・不登校等、生徒指導上の問題に対する組織的で適切な対応 ウ 心の居場所をつくる学級経営の推進 エ 基本的な生活習慣の確立や規範意識の高揚 オ 生徒指導事例研修等、生徒指導にかかわる研修の充実
キャリア教育	◎ 自己実現を図る資質や能力を育むキャリア教育の推進 ア 子どものキャリア発達の段階に応じた指導の充実とキャリアパスポートの活用 イ 自らの役割や責任を果たし、集団の中で自己を生かす指導の工夫 ウ ほっとを活用し、子どものよさや可能性を伸ばす自己評価の工夫
コミュニケーション能力	◎ 言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成 ア 豊かな語彙を獲得するための指導の工夫と環境づくり イ 事実等を正確に理解し、理論的で的確な表現での交流 ウ お互いの考えを伝え合い、自分の考えや集団の考えを発展させる場面設定
体育・健康	◎ 生命を尊び、健やかな体を育む健康・安全教育の充実 ア 自分の体力や技能を把握して進んで運動に親しむための環境の整備 イ 体力テスト等による体力、運動能力の実態把握と結果の活用 ウ 「生活安全」「交通安全」「災害安全」の3つの安全教育にかかわる保護者や地域と連携した体制整備 エ 「食に関する指導」の全体計画に基づく望ましい食習慣の形成に向けた食育の推進 オ 保護者と連携し、お弁当の対応も可とする生活習慣の改善への取組（啓発、協力要請）
研修活動	◎ 指導力の向上を図る研修活動の充実 ア ICT活用（プログラミング教育を含む）におけるICT支援員や未来の学びコーディネーターの支援協力と授業への活用促進 イ 道徳教育、外国語教育、ESD（SDGs）等の実践的研修や授業交流の推進 ウ 各分掌（学習指導・生徒指導・健康安全指導等）と連携した校内研修（ミニ研修等）の推進 エ 他機関との連携、上教研の活動及び各種研修会への積極的な参加

校教務主	長頭任	井佐尾	川藤崎	仁智	健彦
教健體育部	部長	久中	保谷	田基	行文
生徒指導部					愛

渉 外	P T A (事務局)	事務局長 : 教頭 事務局次長 : 教務主任 会計 : 事務職員 顧問 : 校長
	町 P 連	事務局長 : 教頭 庶務 : 教務主任 会計 : 事務職員 顧問 : 校長
	町教研 (へき複部)	副会長 (兼へき複連委員長) : 校長 事務局長 (兼へき複連事務局長) : 教頭

(2) 下川中学校

(下川町南町417番地)

① 学校経営

(R5.5.1現在)

校長	桑内 寿 則	生徒数	学 年	1	2	3	特支	合計
教 頭	久 須 美 晶 子		男	12	12	11	5	40
学級数	7 (うち、特支学級 4)		女	10	8	15	1	34
			計	22	20	26	6	74
校 訓 創 造 敬 愛 (S 5 3 年制定)			学 校 及 び 生 徒 の 実 態					
学 校 の 教 育 目 標			本校は、商店街を中心とする町の南側に位置し、開校77周年を迎える歴史と伝統のある学校であり、卒業生も7,725名(令和4年度末現在)に上っている。昭和53年に町内4中学校統合を機に現在地に校舎建設後、平成12年度に大規模改修を行い、広く明るい学習空間と生活スペースの中で、教育活動が進められている。生徒は、基本的な生活習慣が身につくこと、明らかな活動的、何事にも興味関心が強く、日常の生活行動も安定している。一方、幼少時から人間関係の固定化やそれに伴う考え方・視野の狭さが感じられる側面もある。指導の課題としては、①基礎的・基本的学習内容の定着②家庭学習の習慣化③自己理解と思いやり④将来を見通し主体的に努力する姿勢があげられる。					
◆基本目標 豊かな知性を持ち たくましい意志で やり抜く生徒								
め ざ す 生 徒 像								
【知】 よく考え、正しく判断し、創意工夫する生徒								
【情】 他人の立場を理解し、進んで協力する心豊かな生徒								
【意】 自分の言動に責任を持ち、最後まで成しとげる生徒								
【体】 自他の生命を尊び、自らを鍛える健康な生徒								
学 校 経 営 の 基 本 方 針								
① 学校経営目標の明確化と学校評価結果の具現化								
② トップダウンとボトムアップの調和								
③ CSの機能を活用し、新学習指導要領の趣旨に基づいた、体験を重視した特色ある学校づくり								
学 校 経 営 の 重 点								
(1) 学力向上								
○基礎・基本の定着								
○GIGAスクールプラン～ステップ2・3								
(2) 心に寄り添う生徒指導								
○基本的な生活習慣の定着(情報端末の使用、家庭学習習慣)								
○自他を尊重する心の涵養								
(3) キャリア教育を基本とした『下中グランドデザイン』の実践								
○将来の生き方を見据えた学習・生活習慣								
(4) 小中連携								
○教育課程の9か年の連続性								
(5) 家庭・地域と連携した下川を愛する生徒の育成								
○ふるさとを思いふるさとに貢献する姿勢の育成								
年 度 の 重 点 目 標								
●重点目標 「友と語り 考え よりよい思考を導く生徒を育成する」 ～ 協働する生徒								
重 点 目 標 具 現 化 の 方 策								
(1) 新学習指導要領に対応した教育課程の編成								
① 社会に開かれた教育課程の実現								
② 全教科・全領域で取り組むESD(持続可能な開発のための教育)								
(2) 育成すべき資質・能力の3つの柱を明確にした学習指導								
① 協働を重視した、主体的・対話的で深い学びをさせる授業								
② 誰一人とり残さない、学びの質に着目した指導方法の工夫								
③ 小中連携した学習規律の徹底								
④ 小中連携した学習展開の実施(課題→見通し→思考→まとめ→練習→振り返り)								
⑤ 言語能力、情報活用能力の確実な育成								
(3) 基本的な生活習慣の確立と規範意識を育てる生徒指導の充実								
① 一人一人に対するきめ細かな心配りと心に寄り添う指導								
② 学校全体で醸成する支持的風土								
③ 生徒指導部長を要とした組織的で多様な指導体制								
④ いじめ・不登校の未然防止と早期対応の充実								
⑤ 保護者との丁寧な連携								
⑥ 「生活リズムチェックシート」を活用した規則正しい生活の確立								

重点目標具現化の方策

- (4) 望ましい勤労観や職業観を育てるキャリア教育の充実
 - ① 基礎的・汎用的能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の4能力の育成
 - ② 職業体験活動と特別活動を通じた、社会に参画する力の育成
 - ③ 全ての教育活動を通じてキャリア発達
- (5) 道德性を養い実践力を高める道德教育
 - ① 道德科における自己内対話を重視した道德的価値の学習
 - ② 教育活動全般における道德的実践力の向上
- (6) 自主性を育成し、多様な他者と協働して社会性を身につける特別活動
 - ① 自治的な活動の充実
 - ② 今日の課題を考える学習（薬物乱用防止、情報リテラシー、性教育、防災・安全、食育、地域貢献等）
 - ③ 宿泊活動による社会性の涵養
- (7) 教科横断的な学習の典型としての総合的な学習の時間
 - ① 育成を目指す資質・能力を明確にした探求的学び
 - ② 小学校から連続した、地域の教育力を活用した効果的な学習過程
 - ・下川町が掲げる森林環境教育の実現
 - ・教科等を学ぶ本質的な意義を考えさせるキャリア教育
 - ・地域を知り地域の未来を考えさせるふるさと教育
- (8) たくましく健康な心身を育てる健康・安全教育
 - ① 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を活用した健康的な生活指導
 - ② 安心・安全に配慮した日常の学校生活
 - ③ 危機予測能力、危機回避能力の育成
 - ④ 事故や災害遭遇時に適切な行動ができる安全対応能力の育成
- (9) 特別支援教育の基本的な考え方に基づく配慮 = だれ一人取り残さない教育：SDGsの包摂性
 - ① 一人一人のニーズに応じた合理的配慮
 - ② 教育のユニバーサルデザイン化～視覚的に理解させる授業デザインと教育活動
 - ③ 個別の指導計画・支援計画に基づく個に応じた指導
 - ④ 「校内研修プログラム」「実践事例集」（道教委）を活用した職員研修
- (10) 指導力向上を目指す校内研修の充実
 - ① 理論と実践のバランスをとり、実効性のある校内研修
 - ② 指導力向上のための校外研修への積極的な参加と研修内容の還流
- (11) 9か年を見通した小中連携
 - ① 幼小中高が連携した研修会や参観日の交流
 - ② 「義務教育9年間でめざす姿」に基づく小中連携
- (12) 情報発信・情報公開 = 個人情報保護の観点に立った発信と公開
 - ① 「学校だより」「学級・学年通信」等を通じた情報発信
 - ② 保護者の理解と協力による校務のデジタル化、公表の工夫
 - ③ 一斉メールによる保護者連絡の設定

教育活動推進の重点を支える体制づくり

- (1) 日常的な報告・連絡・相談の徹底
 - ① 連絡→相談→実行→報告
- (2) 全ての情報共有と共通理解・共通指導、チェック機能の充実
 - ① 全生徒に対し全員が担任である意識
 - ② 複数名での点検
- (3) 学年会議・分掌会議・校務運営委員会の定例化（教頭と部長を要とした指導体制）
 - ① スクールカレンダー、月予定表への明記
 - ② 会議時間の確保（教務部による時間割の工夫）
 - ③ 協働体制の構築～学年代表・分掌部長のリーダーシップによる学校運営体制の強化
- (4) 特別委員会の活性化（教頭・代表を要とした指導体制）
 - ① 組織的に取り組む校務
- (5) 職員会議の効率化
 - ① 学年会議・分掌会議における議案の事前検討
- (6) 日報の効率的な活用
 - ① 1週間を見通した連絡、打合せの実施
- (7) 働き方改革の推進「北海道アクション・プラン」「下川町アクション・プラン」の実現
 - ① 業務内容の精選、必要十分な業務の意識化
 - ② 在校時間の記録化と集計（「出退勤管理ちゃん」の活用）
 - ③ 町教育委員会の設定に基づく学校閉庁日の実施
 - ④ 「令和4年度下川中学校部活動方針」に基づく部活動運営
 - ⑤ 少年団や地域の指導者と連携した部活動運営

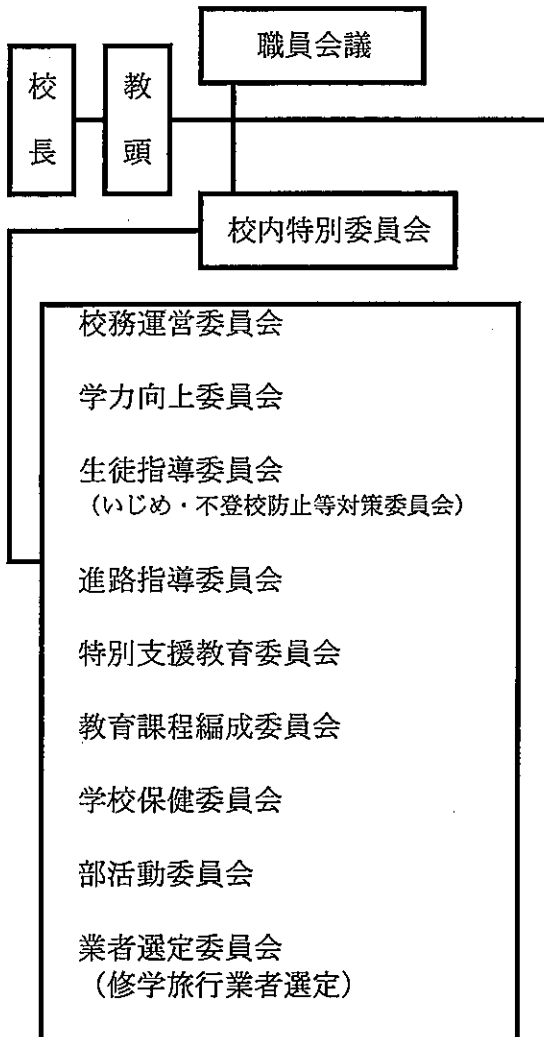
② 校務運營組織

1) 職員構成

校	長	桑	內	壽	則
教	頭	久	須	美	子
教	任	鈴	木	靖	典
生	事	田	村	克	彥
進	主	芳	賀	秀	樹
務	主				
主	導				
導	導				
指					
指					
路					

奈奈諒行
史史盛
川川川島
福福堀養
事諭員補
主教職
健護務
保養事公

2) 校務分掌担当及び学年・学級担任



事務職員	堀川 涼
公務員	蓑島 盛行
支援助員	福迫 一馬
事務補	本郷 洋美
外国語指導助手	Jacob Smallman
地域学校協働コーディネーター	本間 莉恵
相談員	黒川 美和
スクールカウンセラー	草浦 祐美

教務部	教學總視	學習／時間 書籍／道 聽覺／情報	務割德合報	○鈴木大西芳鶴熊飯芳鶴谷藤	典人樹翔直子樹翔太稔	田倉西口	鶴藤大谷	翔稔雅人雄太
	進路指導 図書教育 特別支援 研究							

☆特別支援教育コーディネーター：谷口雄太

☆道徳教育推進教師：大西雅人 ☆GIGAスクール担当：熊澤直行

☆総合的な学習の時間コーディネーター：鶴田 翔

☆研究主任：藤倉 稔

生徒指導部	生徒指導課	○田村克彦	尾形明日翔	翔香
	生徒全指	尾形明利	佐藤藤	芹香
	安体保健	尾形明史	佐藤村	芹香
	保給掃／掲示	福川史奈		克彦
		福川史奈		
		福川史奈	佐藤	芹香

☆ 生徒指導主事：田村克彦

☆ 保健主事：福川史奈

事務部	経理 庶務・管理営繕	○堀川 諒 蓑島 盛行
-----	---------------	----------------

1 年 A 組		熊澤 直行
1 年	(情緒)	飯原麻友子
1 年 副 担		尾形明日翔
1 年 代 表		○ 鈴木 靖典
2 年 A 組		大西 雅人
2 年	(言語)	佐藤 芹香
2 年 副 担		田村 克彦
2 年 代 表		○ 鶴田 翔
3 年 A 組		毛利 朱美
3 年	(情緒)	飯原麻友子
3 年	(知的)	藤倉 稔
3 年 副 担		芳賀 秀樹
3 年 代 表		○ 谷口 雄太

(3) 教 育 関 係 委 員 等 の 状 況

①下川町教育委員会

区 分	氏 名	任 期
教 育 長	川 島 政 吉	R 3 . 7 . 1 ~ R 6 . 6 . 30
委 員	石 谷 英 人	R 2 . 10 . 1 ~ R 6 . 9 . 30
委 員	小 西 貴 弘	R 5 . 10 . 1 ~ R 9 . 9 . 30
委 員	佐 藤 導 謙	R 3 . 10 . 1 ~ R 7 . 9 . 30
委 員	枡 田 と も み	R 4 . 10 . 1 ~ R 8 . 9 . 30

②下川町教育支援委員会

区 分	氏 名	所 属
会 長	加 集 賢 一	下川町民生委員児童委員協議会
副 会 長	山 崎 春 日	下川町民生員児童委員協議会主任児童委員
委 員	桑 内 寿 則	下川中学校校長
〃	井 川 健	下川小学校校長
〃	尾 崎 智 行	下川小学校教諭
〃	宇 恵 慎 哉	〃
〃	鈴 木 靖 典	下川中学校教諭
〃	谷 口 雄 太	〃
〃	古 屋 い づ み	認定こども園園長
〃	蓑 島 美 奈 子	保健福祉課保健師

任 期 : R5. 4. 1 ~ R7. 3. 31

③下川町立学校医・学校歯科医・学校薬剤師

職 名	氏 名	所 属	担 当 学 校
学 校 医	片 野 英 俊	町立下川病院院長	下川小・下川中
〃	丸 山 直 紀	町立下川病院副院長	下川小・下川中
学校歯科医	末 次 博	吉田病院歯科院長	下川小・下川中
学校歯科医	大 野 多 美 子	吉田病院歯科医	下川小・下川中
学校歯科医	先 川 信	吉田病院歯科医	下川小・下川中
学校薬剤師	西 澤 百 奈	(株)ナカジマ薬局	下川小・下川中

任 期 : R5. 4. 1 ~ R6. 3. 31

④下川町学校運営協議会

区分		氏 名	所 属
	小学校推薦	野 崎 晃 史	下川小学校PTA会長
		大 石 陽 介	認定こども園こどものもり 保護者代表
		西 村 和 樹	下川町商工会 副会長
		尾 崎 智 行	下川小学校教諭
	中学校推薦	寺 澤 勇 大	下川中学校PTA会長
副会長		山 口 司	株式会社谷組 専務取締役
		白 木 薫	株式会社マルウささき
		鈴 木 靖 典	下川中学校教諭
会 長	教育委員会 推薦	麻 生 翼	NP0法人森の生活 代表 旧共育ビジョン委員
		田 中 由 紀 子	株式会社下川シーズ 旧共育ビジョン委員
		立 花 祐 美 子	タウンプロモーション推進部 旧共育ビジョン委員
		瀬 川 聖 子	社会教育委員

任 期 : R5. 4. 1 ~ R7. 3. 31

⑤下川町いじめ問題対策連絡協議会

区 分	氏 名	所 属
会 長	田 村 泰 司	下川町長
職務代理	川 島 政 吉	下川町教育委員会教育長
	井 川 健	下川小学校長
	桑 内 寿 則	下川中学校長
	野 崎 晃 史	下川小学校PTA会長
	寺 澤 勇 大	下川中学校PTA会長
	佐 々 木 昌 二	名寄警察署下川駐在所長
	加 藤 哲 雄	下川町交通安全防犯協会長
	川 島 里 美	名寄警察署少年補導員連絡協議会下川支部
	西 村 義 和	下川町民生委員児童委員協議会会長
	高 原 義 輝	保健福祉課長
	高 屋 鋪 勝 英	税務住民課長

任 期 : R5. 4. 1 ~ R7. 3. 31 (委嘱予定)

⑥下川町いじめ問題対策専門委員会

区 分	氏 名	所 属
	調 整 中	旭川弁護士会
	野 口 剛 志	名寄市立総合病院心療内科・精神科 診療部長
	矢 口 明	名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科 准教授
	佐 藤 喜 代 枝	元カウセリングルーム ベア 室長

任 期 : R4. 4. 1 ~ R6. 3. 31

令和5年度社会教育事業計画及び公民館運営事業計画（案）
（公民館・青少年健全育成推進協議会・放課後子ども教室含む）

Ⅰ 生涯学習

① 家庭教育

【推進目標】

○親子の絆を深め、子どもの健全な心と身体を育てる家庭教育の充実

事業名	時 期	場 所	主催等	内 容
1 ブックスタート	4～2月	総合福祉センター	公民館	年5回 6～7か月乳児相談時に実施
2 ブックスタート フォローアップ	4～2月	総合福祉センター	公民館	年7回 1歳6か月児・3歳児健診終了後に実施
3 親子劇場	10月中旬	ハピネス等	教育委員会 公民館 青推協	親子対象で実施
4 下川町父母と先生の会連 合会	通年	小・中学校	教育委員会	2団体(小学校・中学校) 活動支援
5 親子遊び	通年	町民会館児童室	教育委員会	就学前児童の親子遊びの場

② 少年教育

【推進目標】

○家庭・学校・地域社会が一体となり、子どもたちの健やかな心身の成長を図り、自らが未来に希望の持てる意欲に満ちた少年の育成

事業名	時 期	場 所	主催等	内 容
1 少年の主張 上川総合振 興局地区大会	7月10日	上川合同庁舎	上川総合振興 局・上川教育 局	中学生1名代表選出（参加後援：青 推協）
2 社会を明るくする運動提 灯行列パレード	7月14日	町内	下川町社会を 明るくする運 動実施委員会	参加協力（子ども会）
3 夏の非行防止等チラシ配 布	7月下旬	全児童生徒配布	青推協	小・中学校、下商高に配付
4 夏休みラジオ体操inしも かわ	7月下旬 ～8月上旬	安原公園	青推協	詳細は青推協にて決定
5 町内巡視	8月8日 8月26日	町内	青推協	下川神社祭 うどんまつり
6 ジュニアリーダーコース	10月上旬	大雪青少年交流 の家	北海道教育庁	
7 上川地区地域子ども会交 流会	11月下旬	未定	上子連	

事業名		時期	場所	主催等	内容
8	青少年芸術劇場	小学校 9/22 中学校 未定	小学校：公民館 大ホール 中学校：体育館	教育委員会	小学校 ハックルベリーフィン 中学校 未定
9	青少年非行防止標語募集	募集12月中旬 表彰2月中旬	公民館	青推協	小中学生、下商高校生対象
10	モミの木クリスマス会	12月上旬	バスターミナル	下子連	小中学生対象
11	キッズスクール	通年	公民館等	教育委員会、 公民館、キッズスクール	小学生、中学生の体験活動等
12	放課後児童クラブ	通年	町民会館児童室	教育委員会	放課後児童の健全育成（2月末時点）
13	青少年健全育成推進協議会	通年	町内	青推協	各種団体活動支援他
14	スポーツ少年団本部	通年	町内	スポーツ少年団本部	2団体 活動支援
15	子ども会育成連絡協議会	通年	町内	下子連	9団体 活動支援
16	「子ども110番の家」設置	通年	町内	青推協	3月末現在67件
17	青色回転灯 自主パトロール	通年	町内	青推協 教育委員会	
18	小学校総合の授業支援	通年	町内	小学校、教育委員会	
19	小学校クラブ活動支援	通年	町内	小学校、教育委員会	
20	中学校総合の授業支援	通年	町内	中学校、教育委員会	
21	下川商業高等学校課題研究支援	通年	町内	下川商業高校、教育委員会	グループ学習と個別学習を複合して 地域住民と連携して実施

③ 成人教育

【推進目標】

○人間として豊かに生き、連帯感を強め住みよい郷土づくりのための地域活動支援と多種多様なニーズに即した学習機会の提供

事業名		時期	場所	主催等	内容
1	図書館活動支援ボックス (道立図書一括貸出)	5月、10月	道立図書館	公民館	年2回一括貸出（各300冊）
2	除籍本無料配布	8月下旬	公民館	公民館	104名利用 2週間開催
3	はたちを祝うつどい	1月8日	バスターミナル	教育委員会	
4	マイプラン・マイスタディー事業	通年	公民館等		年4事業想定
5	公民館講座	未定	公民館等	教育委員会、 公民館	テーマ：ファシリテーション、コミュニケーション等
6	下川町文化協会	通年	公民館ほか	教育委員会	13団体 活動支援
7	町民会館図書室	通年	図書室	公民館	蔵書管理・読書活動推進
8	図書室ボランティア募集	通年	図書室	公民館	事業・運営協力

④ 高齢者教育

【推進目標】

○高齢者が安心して生活を送るための学習機会の提供と地域活動参加による生きがいの創出

事業名	時 期	場 所	主催等	内 容
1 上川管内高齢者学びのつどい	未定		上川教育局	上川管内23市町村による学習発表及び交流
2 四町高齢者大学交流研修会	未定		4市町教育委員会	和寒町・剣淵町・名寄市風連・下川町の4市町で研修
3 高齢者作品巡回展	2月中旬	上川北部各公民館	上川北部公民館ネットワーク	公民館ロビーにて展示
4 高齢者学級	通年		公民館	出前講座、小学校授業と連携を検討

⑤ 生涯学習基盤整備

【推進目標】

○いつでも自由に学び、多様化、高度化するニーズに対応できる学習環境の充実のための基盤づくり

事業名	時 期	場 所	主催等	内 容
1 社会教育団体活動調査	4月～5月	教育委員会	教育委員会	
2 社会教育委員・公民館運営審議会	6月17日 3月	公民館	教育委員会 公民館	年2回開催
3 視聴覚ライブラリー委員会議	6月7日		教育委員会	年1回開催
4 道立図書一括借受（再掲）	5. 10月	道立図書館	公民館	年2回一括借受 各300冊
5 教育の概要		町内	教育委員会	
6 文化奨励賞	11月3日		教育委員会	
7 図書室だより	毎月	広報	公民館	新刊案内等
8 公民館だより	通年	IP, LINE	公民館	行事案内等
9 各種ボランティア募集	通年	町内	教育委員会	キッズスクールサポーター 図書ボランティア しもかわ共育サポーター
10 社会教育関係団体登録	通年	町内	教育委員会	活動支援、助言
11 視聴覚教材購入・目録整理	通年	図書室	教育委員会	DVD等購入・整理
12 図書購入	通年	図書室	公民館	一般書籍・児童書

II 生涯スポーツ

① 健康スポーツ

【推進目標】

○スポーツを通じた健康づくりと地域に根ざしたスポーツ振興

	事業名	期 間	場 所	主催等	内 容
1	森林環境教育 「もりさんぽ」	5月～2月	みくわが丘等	公民館	森ヨガ、化石探し等
2	夏休みプール教室	8月	B&G海洋センター	公民館	小学1・2年生対象
3	着衣水泳教室	9月	B&G海洋センター	公民館	着衣水泳・SUP体験
4	町民体力測定	6月12～20日 10月（一般）	下川小学校 スポーツセンター	公民館	小学1年生～6年生 高校生以上の町民対象
5	軽スポーツ教室	未定	未定	公民館	
6	スキージャンプ教室	12月	スキー場	公民館	幼児から一般
7	スキージャンプ見学会	6～10月	公民館等	公民館	
8	冬休みスキー教室	1月	スキー場	公民館	
9	スポーツ指導者講習会	未定	未定	公民館	
10	各種軽スポーツ指導	通年	スポーツセンター等	公民館	各種団体の要望対応

② 競技スポーツ

【推進目標】

○スポーツ団体との連携とノルディックスキー競技の一貫指導体制による競技力の向上

	事業名	期 間	場 所	主催等	内 容
1	第35回しもかわ万里長城 クロスカントリー大会	5月21日	桜ヶ丘公園内	教育委員会	
2	第19回万里長城パーク ゴルフ場オープン記念大会	6月4日	万里長城パーク ゴルフ場	町、公民館	
3	第15回公区対抗町民パーク ゴルフ大会	7月30日	万里長城パーク ゴルフ場	公民館	
4	第19回町長杯町民パーク ゴルフ大会	9月2日	万里長城パーク ゴルフ場	町、公民館	
5	第39回全道ノルディック スキー競技大会	12月28日	スキー場	教育委員会 下川スキー協会	
6	ジュニアノルディック スキー選手の育成強化	通年		教育委員会	専門指導員2名体制による選手強化
7	スポーツ少年団本部 (再掲)	通年		スポーツ少年 団本部	各種大会活動支援、助言等
8	下川町スポーツ協会	通年		スポーツ協会	各種大会活動支援、助言等
9	各種社会体育関係団体 活動	通年		各種社会体育 団体	各種大会活動支援、助言等

③ スポーツ基盤

【推進目標】

○生涯を通じてスポーツに親しめる環境をつくるための計画的な施設・設備の整備など基盤整備の充実

事業名		期 間	場 所	主催等	内 容
1	スポーツ奨励賞	7月28日 11月3日	バスターミナル 合同センター 未定	教育委員会	菊池楼紗氏 スポーツジャンプ以外
2	スポーツ推進委員会議	6月8日 9月	公民館	教育委員会	年2回開催
3	スポーツ実技指導	通年		教育委員会	
4	学校施設開放	通年	下川小中学校体育 館・グラウンド	教育委員会	
5	指定管理者による体育施 設管理	通年	スポーツセン ター等	教育委員会	指定管理者による管理・運営

Ⅲ 芸術文化

① 芸術文化

【推進目標】

○創造性に富み、心豊かな芸術文化を育む地域づくり

事業名		時 期	場 所	主催等	内 容
1	町民文化祭	11月3日周辺 予定	公民館他	実行委員会	展示、芸能実施
2	青少年芸術劇場（再掲）	小学校 9/22 中学校 未定	小学校：公民館 大ホール 中学校：体育館	教育委員会	小学校 ハックルベリーフィン 中学校 未定
3	町民芸術文化鑑賞会 （ふれあいコンサート）	未定	公民館大ホール 等	実行委員会	
4	親子劇場（再掲）	10月中旬	ハピネス等	教育委員会 公民館 青推協	親子対象
5	北の星座音楽祭	未定	公民館大ホール 等	実行委員会	
6	北の星座音楽祭鑑賞バス ツアー	未定	名寄市民文化セ ンター等	実行委員会	

② 文化財の保護及び活用

【推進目標】

○地域文化を守り、郷土愛を育む文化財の保護と活用

事業名		時 期	場 所	主催等	内 容
1	指定文化財保存等交付金	通年	町内	教育委員会	上名寄郷土芸能保存会
2	文化財収集整理作業	通年	ふるさと交流館 旧菱光小学校 札天山収蔵館	教育委員会	各種郷土資料の収集・整理・保存等

③ 文化基盤

【推進目標】

○生涯学習時代に対応した文化基盤の整備

事業名		時期	場所	主催等	内容
1	文化奨励賞	11月3日	未定	教育委員会	各団体からの推薦をもとに選考
2	郷土資料展示保存施設		札天山収蔵館	教育委員会	予約対応検討中
3	郷土資料展示施設		ふるさと交流館	教育委員会	予約対応検討中
4	文化財保護審議会	7月以降	公民館	教育委員会	

(2) 令和5年度下川町公民館運営方針

1. 重点目標

- (1) 生涯各期における生活課題や現代的課題に対応した学習機会の提供に努める。
- (2) 生涯学習の視点に立ち、自らが自主的に学習できる環境に努める。
- (3) 生きがいづくりのため、ボランティア活動の推進に努める。
- (4) スポーツの日常生活化を目指し、住民の健康増進、スポーツ愛好者の底辺拡大に努める。
- (5) 児童生徒対象に各種スポーツ教室を行い、スポーツの底辺拡大に努める。
- (6) 地域文化の創造をめざす個性豊かな芸術文化活動の推進に努める。
- (7) 地域の生活文化を創造的に高めるため、団体・サークルの育成に努める。
- (8) 様々な情報媒体を活用した広報活動による、情報の提供に努める。

2. 事業の推進

(1) 公民館活動の充実

- ① 生涯学習活動の拠点として、地域の実態に応じた特色ある活動を積極的に展開する。
- ② 生きがいのある人生を築くため、うるおいのある人づくり、地域づくりを目指す。
- ③ 公民館や各種施設の利用拡大と有効利用を図る。

(2) 学級・教室・講座等の充実

- ① 学習者の主体性が適切に発揮できるように配慮する。
- ② 様々な年齢や性別に対応した学習機会の提供に努める。
- ③ 下川町の特徴を活かした学習機会の提供に努める。
- ④ 家庭教育力向上や生活課題、現代的課題に対応した学習機会の拡充に努める。
- ⑤ 学習等の運営にあたっては、自主的、自発的な運営を推奨する。
- ⑥ 年齢や体力等、様々な運動に親しめる学習機会の拡充に努める。

(3) 地域連帯・生活文化の創造を目指す各種事業

- ① 身近な生活文化を高める諸活動を充実し、文化協会、スポーツ協会等地域関係団体と連携を図り、心の豊さを求める事業を推進する。
- ② 家庭・地域・学校との連携・協力を図り、地域で子どもを育てる意識が高まるよう努める。

(4) 町民会館図書室活動の充実

- ① 読書に親しむ生活習慣を乳幼児期から育成する。
- ② 利用しやすい図書室を目指し、書籍、視聴覚教材、図書情報の収集、託児室等の整備を図る。
- ③ 読み聞かせグループの育成や読書機会の拡充に努める。
- ④ 読書週間の実施による利用者の拡充に努める。

(5) 自主運営グループの育成

- ① 自主企画事業に対する相談・奨励や公民館講座終了後のサークル化支援に努める。
- ② 文化、スポーツサークルの自立化を支援し、文化協会、スポーツ協会への参加を推進する。

(6) 調査・広報活動

- ① 様々な媒体を活用した広報活動を推進し、住民に情報を提供する。
- ② 公民館の運営のあり方や事業の展開方法について、地域住民の意見や要望を積極的に取り入れる。

(7) 公民館運営審議会

- ① 地域住民の動向や学習要求、地域の課題等、幅広く情報収集にあたる。
- ② 公民館が行う住民の教育、芸術及び文化向上のための各種事業企画について審議する。

(3) 社会教育関係各種委員の状況

①下川町社会教育委員及び

下川町公民館運営審議会委員

区分	氏 名	選 考 区 分
委員長	近 藤 正 治	学識経験者
副委員長	名 畑 格	学校教育関係者
委 員	井 川 健	学校教育関係者
"	桑 内 寿 則	学校教育関係者
"	濱 下 昌 也	学校教育関係者
"	品 地 和 彦	社会教育関係者
"	森 清 次	社会教育関係者
"	西 村 義 和	学識経験者
"	長 尾 綾	学識経験者
"	瀬 川 聖 子	家庭教育関係者

任 期 : R4. 4. 1 ~ R6. 3. 31

②下川町スポーツ推進委員

区分	氏 名	所 属 等
委員長	鎌 田 國 仁	野球、サッカー
副委員長	高 橋 和 之	ソフトボール
委 員	津 志 田 志 保	バドミントン、水泳
"	宮 本 桂	バスケットボール
"	小 峰 早 智	水泳、地域スポーツ
"	弓 野 直 美	テニス、地域スポーツ
"	遠 藤 和 之	スキージャンプ
"	野 崎 晃 史	剣道
"	河 村 奈 央 子	登山、水泳
"	尾 形 明 日 翔	野球
"	勝 本 真 帆	バレーボール

任 期 : R4. 4. 1 ~ R6. 3. 31

③下川町文化財保護審議会委員

区分	氏 名
会 長	森 清 次
副 会 長	名 畑 格
委 員	矢 筈 原 豊
"	上ヶ島 吉夫
"	小 原 久 典

任 期 : R4. 4. 1 ~ R6. 3. 31

④下川町視聴覚ライブラリー委員

区分	氏 名
会 長	藤 原 祐 輔
副 会 長	佐 藤 飛 鳥
委 員	遠 藤 裕 美
"	矢 野 圭 子
"	伊 藤 蘭
"	小 倉 三桜雪
"	鶴 田 翔
"	宮 田 桃 伽

任 期 : R4. 4. 1 ~ R6. 3. 31

④下川町町民会館児童室運営委員及び

放課後子どもプラン運営委員

区分	氏 名	所属等
会 長	野 崎 晃 史	小学校PTA会長
副 会 長	田 邊 真 理 恵	児童クラブ保護者代表
委 員	佐 藤 仁 彦	小学校教頭
"	神 谷 智 美	児童クラブ厚生員
"	山 崎 春 日	民生委員児童委員協議会主任児童員
"	押 田 す み え	民生委員児童委員協議会主任児童員
"	亀 山 貴 之	保健福祉課主幹
"	勝 元 尚 子	子ども会育成連絡協議会会長
"	大 石 陽 介	認定こども園保護者代表
"	桑 原 桂 子	キッズスクール指導員

任期 : 委嘱時~R6. 3. 31(委嘱予定)

⑥下川町青少年育成推進協議会役員

区 分	氏 名	所 属 等
会 長	川 島 政 吉	下川町教育委員会教育長
副 会 長	井 川 健	下川小学校長
〃	桑 内 寿 則	下川中学校長
〃	濱 下 昌 也	下川商業高等学校長
理 事	野 崎 晃 史	下川小学校ＰＴＡ会長
〃	寺 澤 勇 大	下川中学校ＰＴＡ会長
〃	津 志 田 大	下川商業高等学校ＰＴＡ会長
〃	西 村 義 和	下川町民生委員児童委員協議会長
〃	加 藤 哲 雄	下川町交通安全防犯協会長
〃	川 島 里 美	名寄警察署少年補導員連絡会下川支部長
〃	高 原 義 輝	下川町保健福祉課長
〃	高屋鋪 勝英	下川町税務住民課長
委 員	勝 元 尚 子	下川町子ども会育成連絡協議会長
〃	蓑 谷 春 之	下川町スポーツ少年団本部長
〃	加 藤 久	下川町社会福祉協議会長
〃	松野尾 道雄	名寄地区保護司会下川支部長
〃	山 崎 春 日	下川町人権擁護委員
〃	加 藤 哲 雄	下川町公区長連絡協議会長
〃	三津橋 英実	下川町商工会長
〃	佐々木 昌二	名寄警察署下川駐在所長
監 事	森 義 幸	下川町交通安全指導員会長
〃	伊 東 英 晴	下川消防署長
〃	杉 山 周 平	北海道青少年健全育成運動推進指導員

任 期 ： R4. 4. 1 ～ R6. 3. 31

(4) 令和5年度 社会教育関係団体の状況

①各種団体連合会等

名 称	代表者名	事務局（名）	会 員 数
下川町父母と先生の会連合会	野崎 晃史	佐藤 仁彦	1 5 8
下川町文化協会	杉之下 正樹	多田 淳浩	1 5 0
下川町子ども会育成連絡協議会	勝元 尚子	教育委員会教育課	2 2 1
下川町スポーツ協会	蓑谷 春之	栗原 一清	2 4 1
下川町スポーツ少年団本部	蓑谷 春之	栗原 一清	1 4 1
下川町青少年健全育成推進協議会	川島 政吉	小林 大生	3 5

1) 下川町父母と先生の会連合会

会 長	野 崎 晃 史	事務局長	佐 藤 仁 彦
副会長	寺 澤 勇 大	庶 務	尾 崎 智 行
〃	桑 内 寿 則	会 計	三 浦 千 恵

加盟PTA団体

名 称	代 表 者	会 員 数	備 考
下川小学校PTA	野 崎 晃 史	1 1 3	
下川中学校PTA	寺 澤 勇 大	6 6	
計	2 団体	1 7 9	

2) 下川町文化協会

会 長	杉之下 正 樹	事務局長	多 田 淳 浩
副会長	森 清 次	会 計	多 田 淳 浩
〃	武 藤 久 志		

加盟文化サークル

区 分	サークル名	代 表 者	事務局（名）	会 員 数
絵 画	下川柏葉会	萬比呂比古	多田 淳浩	1 0
木 工 芸	工房北創	倉橋三千雄	安藤 勇	1 0
書 道	下川書道愛好会	千葉 則男	千葉 則男	8
舞 踊	上名寄郷土芸能保存会	黒川 仁一	黒川 仁一	4 0
大 正 琴	下川大正琴愛好会	佐々木光子	木村 玉江	6
民 謡	下川成友会	小田切一逸	板橋 太郎	4
歌 謡	下川歌謡研究会	武藤 久志	武藤 久志	1 4

歌謡	下川カラオケ愛好会	田中 良一	田中 良一	1 3
陶芸	下川陶芸愛好会竜胆	岡崎 哲子	小野 春恵	6
囲碁	下川囲碁同好会	坪田 篤雄	河端 正敏	1 1
太鼓	下川溪流太鼓	矢内 辰二	押田すみえ	1 3
写真	ニッコールクラブ道北支部下川	森 清次	森 清次	1 0
計	1 2 団体			1 4 5

3) 子ども会育成連絡協議会

会 長 勝 元 尚 子 事務局 下川町教育委員会教育課
副会長 橋 本 千 尋

加盟子ども会

区 域 名	名 称	子 ど も 育 成 会		子供会 会員数	合 計 会員数
		会 長 名	会員数		
上名寄	上名寄連合子供会	渡 邊 匡 子	1 2	9	2 1
中成北・元町公区	中成北・元町子ども会	勝 元 尚 子	3	2 5	2 8
中成南公区	中成南子ども会	橋 本 千 尋	3	3 1	3 4
北町・幸町・共栄町公区	北町・幸町・共栄町子ども会	折原末利馨	2	1 7	1 9
錦町公区	錦町公区子ども会	佐 藤 奈 実	2	2 5	2 7
旭町公区	旭町あけぼの子供会	山 本 江 里	2	2 0	2 2
緑町・三和・一の橋・二の橋公区	緑町・ひふみ橋子供会	栢田ともみ	0	2 0	2 0
末広公区	末広青空子ども会	山 中 真 弓	4	3 7	4 1
新町・班溪公区	新町・班溪子ども会	睦良田まい子	5	5	1 0
	9 団体		3 3	1 8 9	2 2 2

4) 下川町スポーツ協会

会 長 蓑 谷 春 之
副会長 仁 木 茂 則

事務局 長 栗 原 一 清
事務局次長 伊 藤 克 彦

加盟体育団体

種 目	団 体 名	会 長	事務局(名)	会員数
野 球	下川軟式野球連盟	丹野 重男	塩田 晃久	24
柔 道	下川柔道連盟	山下 邦廣	南澤 茂	13
剣 道	下川剣道連盟	小原 強	小原美紀子	11
山 岳	下川山岳会	加集 賢一	堀北 忠克	21
ソ フ ト テ ニ ス	下川ソフトテニス協会	市村 茂雄	弓野 直美	19
ス キ ー	下川スキー協会	押田 真	堀北 忠克	18
バ ド ミ ン ト ン	下川バドミントンクラブ	仁木 茂則	平木 達也	15
パ ー ク ゴ ル フ	下川町パークゴルフ協会	伊東 時晴	武藤 久志	68
スポーツクライミング	下川スポーツクライミングクラブ	苅谷 勝利	斎藤 丈寛	27
計	9 団体			216

5) 下川町スポーツ少年団本部

本 部 長 蓑 谷 春 之 事 務 局 栗 原 一 清

加盟スポーツ少年団

種 目	団体名	少年団		後援会・育成会		合計 人数
		団長名	団員数	会長名	会員数	
剣 道	下川剣道スポーツ少年団	大 西 悠 斗	5	平 田 豊 和	9	14
柔 道	下川柔道スポーツ少年団	三浦かりん	10	山本めぐみ	15	25
野 球	下川野球少年団	竹 本 祐 那	10	平 野 好 宏	10	20
ス キ ー	下川ジャンプ少年団	郡 司 真 那	18	菊 池 崇 史	5	23
サッカー	下川サッカー少年団	水 間 空 汰	24	杉野あゆみ	21	45
計	5 団体		67		60	127

②その他社会教育関係団体

名 称	代 表 者	事務局（名）	会 員 数
シルバーアートの会	末 武 久 恵	本 田 久 美	6
下川英会話愛好会	日 野 昭 雄	山 下 節 子	9
下川ジャンプスキー選手後援会	養 谷 春 之	堀 北 忠 克	185
下川商業高等学校PTA	津 志 田 大	小 宮 山 佳 展	97
NPO 法人森の生活	麻 生 翼	児 玉 こ ず え	27
Join The Heart	富 岡 達 彦	竹 本 礼 子	18
下川木彫匠会		遠 藤 里 美	4
子育てクラブカナカナ	瀬 川 聖 子	瀬 川 聖 子	20
こども運動サークル「しもかわっこ」	庄 子 幸 恵	矢 内 千 枝	22
下川スキーパトロール奉仕団	押 田 真	横 井 雅 江	9
下川軽スポーツ愛好会	加 集 賢 一	福 島 勇 二	17
ステップアップ	千 葉 真 由 美	竹 本 礼 子	35
下川クロスカントリースキー少年団	加 藤 準	加 藤 準	4
下川りくらしネット	田 中 由 紀 子	田 中 由 紀 子	18
高齢者元気会	高 橋 水 哉		27
下川ネクストバスケットボールクラブ	宮 本 桂	馬 場 恵 子	9
計	16団体		507

(5)下川町の文化財

◎無形文化財第1号 「上名寄郷土芸能」

(麦や節・郡上節・こだいじん)

- ・指定年月日 昭和39年10月14日
- ・伝承者 上名寄郷土芸能保存会
(会長 黒川 仁一)

・伝承経過

明治34年に岐阜県郡上郡高鷺村(現郡上市)から上名寄地区に入植した開拓者が、開拓の苦しみの中で故郷を偲び、唄い踊られ今日まで伝えられてきたものである。

昭和39年9月6日に、これを永く後世に残すため保存会が発足し、以来保存に努め現在にいたっている。

・発祥地

「麦や節」富山県五箇山(富山県東砺波郡)

「郡上節」岐阜県郡上市

「こだいじん」富山県五箇山(富山県東砺波郡)

・由来

・麦や節… 五箇山は平家の落人が身をしのばせたところといわれ、歌詞の中にもなにかしら人目をはばかる落武者の心情をうたわれている感があるところから、平家踊りとも言われる。

・郡上節… 郡上踊りともいい、郡上郡八幡町(現郡上市)の盆踊りの唄である。八幡町は長良川の上流盆地にある旧青山氏4万8千石の城下町で、青山氏は官民和合のために盆踊りを奨励したが、それがこの踊りの始まりといわれている。

・こだいじん… 富山県五箇山には数多くの民謡が温存されており、その中にこだいじんとして仕事をしながら気やすく唄われ、踊られたものと伝えられている。

◎天然記念物第1号 「はるにれ」

- ・所在地 下川町西町40番地(小学校校庭)
- ・指定年月日 昭和39年10月14日
- ・管理者 下川小学校
- ・由来

樹齢約830年(直径約136cm、樹高約23m)と推計され、下川簡易教育所(明治40年12月建設)の前に切り残されたもので、現在町立下川小学校校舎前にそびえている。

昭和43年9月に北海道100年記念事業の名木・美木の選定にも名木として選定された。

さらに、昭和49年3月30日付で、北海道自然保護条例に基づき、下川小学校開校記念保護木としても指定されている。

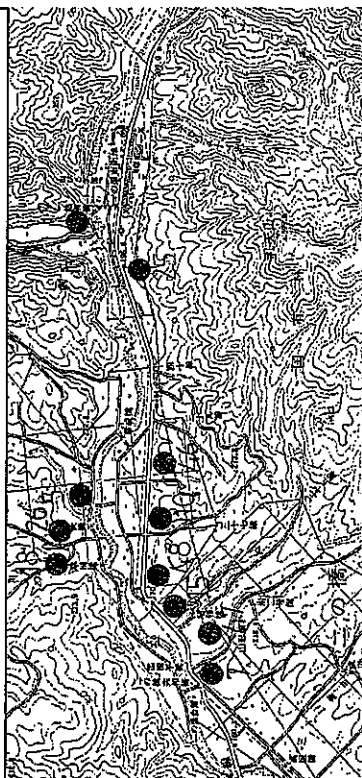
◎天然記念物第2号 「下川鳴る石」

- ・所在地 下川町珊瑚
(国有林下川事業区34林班)
- ・指定年月日 昭和57年12月10日
- ・管理者 上川北部森林管理署
- ・由来

新第三紀中新世紀(2,500万年前~1,000万年前)の火山噴火物で、サンル溶岩といわれる流紋岩の球礫であって、直径が数ミリメートルから数センチメートルのものが多く、手にとって振ると「サラサラ」と音を出す。空洞内に晶出している石英が剥離して音を出す。

町内遺跡包蔵地地図

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	上名寄チャン跡	11	北町C遺跡	21	矢文1遺跡
2	佐藤遺跡	12	シカリベツ遺跡	22	北町高原遺跡
3	北町遺跡	13	川向遺跡	23	北町伊藤遺跡
4	高瀬遺跡	14	桜ヶ丘遺跡	24	浄水場下遺跡
5	モサナル遺跡	15	二の橋2遺跡	25	松岡遺跡
6	浅野遺跡	16	溪和遺跡	26	幸成2遺跡
7	二の橋遺跡	17	三の橋遺跡	27	矢文2遺跡
8	北町B遺跡	18	ルベA遺跡	28	上名寄1遺跡
9	ペンケ遺跡	19	上ヶ島遺跡	29	上名寄2遺跡
10	幸成遺跡	20	武石遺跡	30	矢文3遺跡



No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
31	矢文4遺跡	46	幸成3遺跡	61	三の橋5遺跡
32	矢文5遺跡	47	二の橋3遺跡	62	上名寄6遺跡
33	川向2遺跡	48	二の橋4遺跡	63	上名寄7遺跡
34	桜ヶ丘A遺跡	49	三の橋4遺跡	64	前サナル1遺跡
35	南町遺跡	50	ペンケ2遺跡	65	前サナル2遺跡
36	三の橋2遺跡	51	ペンケ3遺跡	66	サナル11線遺跡
37	三の橋3遺跡	52	北町F遺跡	67	サナル5線遺跡
38	北町D遺跡	53	北町G遺跡	68	サナル4線遺跡
39	北町E遺跡	54	北町H遺跡	69	北町1遺跡
40	珊瑠川向遺跡	55	北町I遺跡	70	上名寄8遺跡
41	上名寄3遺跡	56	上名寄4遺跡		
42	桑の沢1遺跡	57	上名寄5遺跡		
43	班溪1遺跡	58	班溪2遺跡		
44	桑の沢2遺跡	59	班溪3遺跡		
45	桑の沢3遺跡	60	西町1遺跡		



(6)下川町社会教育関係表彰状況

①旧表彰規則による表彰者

年度	区分	受賞者名
昭和 32	教	安藤 操
昭和 33	教	土屋直太郎
昭和 34	教	村上 美代
昭和 38	教	伊東 美勝 佐藤 富喜
昭和 39	文	井上 文山 下川柏葉会
	ス	村上 良雄 石川 政勝
昭和 40	教	平 恵美
	文	大山 泉雪
昭和 50	教	柴田 英一
昭和 53	教	窪田 銀治 佐藤 定行
	文	稲村 頌山
昭和 56	ス	佐々木 周一 石川 政勝

※教：教育文化功績表彰、文：文化賞、
ス：スポーツ賞

②下川町文化賞

年度	受賞者名	備 考
昭和 57	佐藤 定行	文化協会長
	狭布里 哲也	体育協会長、柔道連盟、スキー協会設立
昭和 58	山 口 昂	学校医として健康づくり
	石川 政勝	剣道
昭和 60	井上 キミエ	茶道、華道
平成元	川原 悠山	尺八・音楽振興
	上名寄郷土保存会	保存・伝承
平成 7	中内 伊勢吉	文化財
平成 13	谷 静 子	茶道
平成 14	本田 榮太郎	文化協会長
平成 16	文梨 政幸	詩作
平成 20	西野 徳義	写真
平成 28	田端 英雄	書道
平成 30	武藤 ミエ	短歌

③下川町特別町民栄誉賞

年度	受賞者名	備 考
平成 26	葛西 紀明	ソチ冬季オリンピックスキージャンプ個人ラージヒル銀メダル、団体銅メダル

④下川町町民栄誉賞

年度	受賞者名	備 考
平成 7	岡部 孝信	'95 ノルディックスキー世界選手権サンダーベイ大会ジャンプノーマルヒル個人金メダル、団体銅メダル

平成 14	葛西 紀明	アルペールビル・リレハンメル・長野・ソルトレーク冬季オリンピックスキージャンプ 4 大会連続出場
平成 26	伊東 大貴	ソチ冬季オリンピックスキージャンプ団体銅メダル
平成 27	伊藤 有希	'15 ノルデックスキー世界選手権大会ジャンプ個人戦銀メダル、ジャンプ混合団体銅メダル

⑤下川町特別スポーツ功労賞

年度	受賞者名	備 考
平成 18	岡部 孝信	トリノ冬季オリンピックスキージャンプ団体第 6 位、ラージヒル第 8 位
	葛西 紀明	トリノ冬季オリンピックスキージャンプ団体第 6 位、冬季オリンピック 5 大会連続出場
平成 19	岡部 孝信	'07 ノルデックスキー世界選手権札幌大会スキージャンプ団体銅メダル
	葛西 紀明	'07 ノルデックスキー世界選手権札幌大会スキージャンプ団体銅メダル
平成 21	岡部 孝信	'09 ノルデックスキー世界選手権大会スキージャンプ団体銅メダル
	葛西 紀明	'09 ノルデックスキー世界選手権大会スキージャンプ団体銅メダル
	伊東 大貴	'09 ノルデックスキー世界選手権大会スキージャンプ団体銅メダル
平成 22	岡部 孝信	バンクーバー冬季オリンピック日本選手団主将を務める。
平成 22	葛西 紀明	バンクーバー冬季オリンピックオリンピックスキージャンプ団体第 5 位、個人第 8 位、冬季オリンピック 6 大会連続出場
	伊東 大貴	バンクーバー冬季オリンピックオリンピックスキージャンプ団体第 5 位
平成 27	葛西 紀明	'15 ノルデックスキー世界選手権大会ジャンプ混合団体銅メダル

平成 28	葛西 紀明	スキーワールドカップ通算 500 試合参戦
平成 29	葛西 紀明	世界選手権最多・最年長出場、ワールドカップ最年長表彰台
	伊東 大貴	'17 ノルディックスキー世界選手権ラハティ大会ジャンプ混合団体銅メダル
	伊藤 有希	'17 ノルディックスキー世界選手権ラハティ大会ジャンプ女子ノーマルヒル銀メダル、混合団体銅メダル
平成 30	葛西 紀明	平昌冬季オリンピックオリンピックスキージャンプ団体第6位、冬季オリンピック最多 8 大会連続出場、ワールドカップ最多出場
	伊東 大貴	平昌冬季オリンピックオリンピックスキージャンプ団体第6位、冬季オリンピック 4 大会連続出場
令和 1	葛西 紀明	スキーワールドカップ最年長及び最多出場 566 試合
	伊東 大貴	'19 ノルディックスキー世界選手権大会ジャンプ団体銅メダル
令和 2	葛西 紀明	スキーワールドカップ最年長及び最多出場 569 試合
令和 4	伊藤 有希	北京冬季オリンピックスキージャンプの混合団体戦 4 位、ワールドカップ個人戦 3 位入賞

⑥下川町スポーツ功労賞

年度	受賞者名	備考
平成 10	岡部 孝信	長野冬季オリンピックスキージャンプ団体金メダル、ラージヒル第 6 位
平成 30	伊藤 有希	平昌冬季オリンピックオリンピックスキージャンプノーマルヒル第 9 位、冬季オリンピック 2 大会連続出場、ワールドカップ表彰台 3 回

令和 1	伊藤 有希	'19 ノルディックスキー世界選手権大会ジャンプ団体第 6 位、男女混合団体第 5 位
令和 3	伊藤 有希	'21 ノルディックスキー世界選手権大会ジャンプ団体第 4 位、男女混合団体第 5 位
	佐藤 慧一	'21 ノルディックスキー世界選手権大会ジャンプ団体第 4 位
令和 4	伊東 大貴	北京冬季オリンピックで 5 度目の日本代表選手に選出
令和 5	伊藤 有希	'23 ノルディックスキー世界選手権大会ジャンプ個人第 6 位、団体第 5 位、男女混合団体第 5 位

⑦下川町特別スポーツ栄誉賞

年度	受賞者名	備考
平成 10	葛西 紀明	長野冬季オリンピックスキージャンプノーマルヒル第 7 位
平成 19	伊東 大貴	'07 ノルディックスキー世界選手権札幌大会ジャンプ団体銅メダル
平成 22	加藤 大平	バンクーバー冬季オリンピックオリンピックスキージャンプコンパインド団体第 6 位
平成 26	伊藤 有希	ソチ冬季オリンピックスキージャンプ女子ノーマルヒル 7 位
令和 2	佐藤 慧一	'20 コンチネンタルカップ個人優勝、サマーグランプリ団体優勝
令和 5	二階堂 蓮	'23 ノルディックスキー世界選手権大会ジャンプ初代表

⑧下川町スポーツ栄誉賞

年度	受賞者名	備考
平成 5	岡部 孝信	リレハンメル冬季オリンピックスキージャンプ団体銀メダル、ラージヒル第 4 位
	葛西 紀明	リレハンメル冬季オリンピックスキージャンプ団体銀メダル、ノーマルヒル第 5 位

平成 18	伊東 大貴	トリノ冬季オリンピックスキージャンプ団体第 6 位
平成 19	伊藤 謙司郎	'07 ノルデックスキー世界選手権札幌大会ジャンプ代表選手
平成 21	加藤 大平	'09 ノルデックスキー世界選手権大会スキーコンバインド団体金メダル
平成 25	伊東 大貴	'13 ノルデックスキー世界選手権大会ジャンプ混合団体金メダル
	伊藤 有希	'13 ノルデックスキー世界選手権大会ジャンプ混合団体金メダル
令和 2	伊東 大貴	'20 ワールドカップ団体銀メダル
	伊藤 有希	'20 ワールドカップ団体銀メダル
令和 4	佐藤 慧一	'22 ワールドカップ団体銀メダル

⑨下川町スポーツ貢献賞

年度	受賞者名	備考
平成 7	伊藤 直人	'95 ノルディックスキー世界選手権サンダーベイ大会ジャンプ代表選手
平成 18	伊藤 謙司郎	トリノ冬季オリンピックスキージャンプ最年少代表選手
平成 18	伊藤 有希	'07 コンチネンタルカップレディース 札幌大会スキージャンプ銅メダル
平成 21	伊藤 有希	'09 ノルデックスキー世界選手権大会スキージャンプ競技に冬季種目最年少選手として出場
平成 29	伊藤 将充	'17ジュニア世界選手権アメリカ大会男女混合団体銅メダル
	瀬川 芙美佳	'17ジュニア世界選手権アメリカ大会男女混合団体銅メダル
令和 2	工藤 湊太	'20ユースオリンピック男女混合団体銀メダル
令和 4	津志田 雛	'22ジュニア世界選手権ポーランド大会女子団体銀メダル
	中山 和	'22ジュニア世界選手権ポーランド大会女子団体銀メダル、'22FisCup個人戦銀メダル

令和 5	中山 和	'22ジュニア世界選手権カナダ大会女子団体金メダル、男女混合団体銀メダル
	坂野 旭飛	'22ジュニア世界選手権カナダ大会男女混合団体銀メダル
	杉山 律太	'22ジュニア世界選手権カナダ大会男女混合団体銀メダル

⑩下川町文化奨励賞

年度	受賞者名	備考
昭和 47	稲村 頌山	邦楽（尺八）
昭和 53	田宮 冠雪	書道
昭和 58	すえひろ会	民謡舞踊
	谷 静 子	茶道
	西野 徳義	写真
	文梨 政幸	詩作
昭和 60	林 金 雄	短歌
	日野 昭雄	写真
	佐藤 宏彦	美術
昭和 61	佐藤 久子	華道
昭和 62	谷口 富子	短歌
昭和 63	本田 榮太郎	絵画
平成 2	佐藤 きよ子	華道
	中内 伊勢吉	文化財
平成 3	高島 菊次	木彫
平成 6	武藤 美枝	短歌
	林 貞 子	婦人団体育成
平成 9	小林 清一郎	詩吟
	前田 一	社交ダンス・邦楽
平成 10	小原 義夫	木工芸
平成 11	古屋 恵美子	郷土芸能
	神 田 久	民謡
平成 12	栗原 導子	三味線
	伊藤 ノエ	詩吟
平成 15	川岡 政喜	詩吟
	宮田 由三	カラオケ
平成 16	都 要	カラオケ
平成 17	及川 幸雄	絵画
	押田 キヨミ	短歌
平成 19	尾藤 テル子	民謡・三味線
平成 20	三賀 定喜	民謡・三味線
平成 21	武藤 登	詩吟
	児玉 光	チェンソーアート
平成 22	市村 桂子	絵画
平成 24	倉橋 三千雄	木工芸
	柳澤 美晴	短歌
平成 25	高山 トミ子	短歌
平成 26	金子 淑子	書道
平成 27	西村 道子	絵画

平成 28	千葉 芳男	歌謡
	藤原 重雄	歌謡
平成 30	西野 道子	茶道
令和 1	鈴木 牛後	俳句
	平間 柊	簿記コンクール
令和 2	立花 日菜梨	ピアノ
令和 4	千葉 則男	書道

⑪下川町スポーツ奨励賞

年度	受賞者名	備考
昭和 45	山川 久四郎	スキー
	西崎 信光	卓球
昭和 47	藤原 喜代蔵	相撲
	三菱金属鉱業 所庭球部	庭球
昭和 57	大西 義信	相撲
	藤木 豊	相撲
	藤原 一行	相撲
	安澤 雄吉	相撲
	田中 良一	相撲
	稲森 芳春	相撲
	苅谷 勝利	登山
	遠藤 幸枝	陸上
	西野 道子	陸上
	伊東 時晴	スキー
昭和 58	西村 儀男	野球
	森 茂	野球
	小南 力蔵	陸上
	猪股 俊孝	柔道
昭和 59	武藤 登	剣道
	今 ひろ子	陸上
昭和 60 昭和 60	伊藤 克彦	スキー
	佐々木 孝元	スキー
	伊藤 直人	スキー
昭和 61	岡部 孝信	スキー
	渡辺 清	野球
	寺澤 義晴	卓球
	山下 邦廣	柔道
昭和 62	小原 強	剣道
	前田 一	野球
	杉之下 悟	柔道
	金澤 博	登山
	森 義幸	スノーモービル
昭和 63	葛西 紀明	スキー
	豊福 九州男	剣道
	佐藤 実	バレーボール
	阿部 正司	スキー
	高原 大	柔道

平成元	吉田 伸男	陸上
	遠藤 和之	少林寺拳法
	下川ゲート ボール協会	ゲートボール
平成 2	蓑谷 秀之	スキー
	北村 洋司	スキー
	山崎 克也	スキー
	白川 索	スキー
	安澤 豊	スキー
	小原 幸	陸上
平成 3	中西 日出男	地域スポーツ
平成 4	蓑谷 春之	スキー
	小林 弘見	スキー
	岡部 弘	スキー
	堺 修一	地域スポーツ
平成 5	西島 勲	地域スポーツ
	蓑谷 富之	ゲートボール
平成 6	伊藤 恒	スキー
	佐原 裕	スキー
平成 6	岡村 知博	スキー
平成 7	布施 昇	スキー
	藤木 聡	庭球
平成 8	遠藤 清	ソフトボール
	蓑谷 省吾	スキー
	山本 三喜男	ソフトボール
平成 9	佐藤 正義	登山
	高沼 秀雄	柔道
	三島 満江	陸上
平成 10	道原 幸雄	卓球
	山本 博隆	地域スポーツ
	津川 博美	野球
	川島 光義	陸上競技
平成 11	渋谷 敬吉	スキー
	石川 征男	スキー
	西村 道子	スキー
	亀田 正友	パークゴルフ
平成 11	日下 伸子	卓球
	道原 伸也	バレーボール
	山本 弘明	ソフトボール
	加茂 清	登山
平成 15	野崎 政一	ソフトボール
	池田 勉	軟式野球
	福田 勝芳	軟式野球
平成 19	加藤 貢	ソフトボール
平成 23	加集 賢一	登山
平成 25	小原 美紀子	剣道
	南澤 茂	柔道
平成 27	加藤 準	陸上
平成 28	神田 邦枝	パークゴルフ
	杉之下美津子	パークゴルフ
	伊井 弘	パークゴルフ

平成 29	勢藤 理桜	スキー
	鴨田 鮎華	スキー
	伊藤 浅子	剣道
令和 1	久末 雅輝	フットサル
	松岡 陽奈	剣道
	江口 莉都	剣道
	宍戸 仁美	剣道
	堀川 結衣	剣道
	松岡 杏奈	剣道
	佐藤 希愛	剣道
	木幡 斗吾	柔道
	鴨田 颯人	柔道
	駒津 太珂	トランポリン
令和 2	日下 瑠基	スキー
	中山 和	スキー
	蓑谷 常夫	パークゴルフ
	川崎 忠雄	パークゴルフ
令和 3	弓野 華緒	スキー
	津志田 雛	スキー
令和 3	池田 光希	スキー
令和 4	佐藤 虹斗	スキー
	西田 蓮太郎	スキー
	齋藤 優	スキー
	岩崎 里胡	スキー
	杉山 律太	スキー
令和 5	菊池 桜紗	スキー

